

えいらい

No.20

平成 26 年 7 月発行
発行元／一般財団法人永頼会 松山市民病院



〒790-0067 愛媛県松山市大手町 2 丁目 6-5 TEL / 089-943-1151 FAX / 089-947-0026
発行責任者／院長 山本祐司 編集／松山市民病院広報委員会

新病棟・新システム

～1期工事終了と電子カルテ稼働～



副院長 萩山 吉孝

平成24年3月に始まった新病棟の1期工事が完成し、去る2月22日に野志松山市長をはじめ、各界から来賓を迎えて内覧会が行われました。

その後内装が仕上げられ、3月21日から23日にかけて、入院患者の方々とともに旧病棟からの引越しを行いました。その際、看護部をはじめ、ほぼ全職員が頑張ったおかげで、大きなトラブルもなく終了しました。中には学会出席を取りやめて手伝った医師もいたと聞きます。ご苦労様でした。

旧S棟の片付け終了後に、取り壊しと2期工事が始まりました。平成27年3月に新棟工事の全てが完成すれば、放射線室・放射線科、臨床検査室、病理検査室、内視鏡検査室、血管撮影室・心カテ室、透析室、リハビリテーション室などの診療部門が、新棟内に移ることになります。

診療機能の重要部門が全て免震機構を備えた新棟に配されることにより、災害時に病院機能が確保できます。当院が地域医療の重要な役割を担っていることを、各職員があらためて自覚することと思います。

4月1日より、かねてから準備中であった電子カルテの運用を開始しました。十分機能するようになれば、診療だけでなく、請求業務、物品管理、各種医療情報の集中管理などの大きな力になると思われます。また、地域医療ネットワークに接続できれば、医療連携をさらに進めることができ、サービスや効率の向上が期待できます。

稼働の当初は、システム不備や、使う

側の知識不足などから、持てる機能を十分引き出せていないように思われましたが、早く慣れて病院機能の向上を実感できるようになりたいものです。

さて、振り返ると私自身は紙カルテやX線フィルムの時代から、フィルムレス画像システム、オーダーリング、電子カルテへと変革する時期を全て経験できました。確かに、ハイテク機器を使用すると、データの取り出し、記録、集計が一瞬でできる便利さを実感できます。

しかし、ハードウェアを動かすのは人であり、適切な指示を入力しなければ機械は反応しません。入力ボタンを探して、目はディスプレイの上を泳ぎ、マウスをデスク上でかき回した挙げ句にギブアップして、誰かに救済をお願いする有様です。

どうして入力直感的にできるような手順の構成になってないのか、と一人文句を言っても変わりようがありません。いっそ電子カルテで様式統一がなされたら、学生教育に組み込めるので、悩む者が減るのでは、と思ったりしますが、若者は苦も無く使いこなしているようです。要は、慣れの問題ということで、これが当たり前のことになっていくのかもしれない。

次々に大変革のあった年度初めでありました。例年通り、医師16名をはじめ総勢51名の新入職員を迎えました。山本院長の掲げる「変革と育成」というスローガンのとおり、変化を恐れず、ベテランは新人を、また年長者もお互いに啓蒙し合って、この困難な時期を乗り切っていこうと思っています。



撮影：総務課／山辺 由紀（八幡浜市保内町平家谷）